



from Washington, D.C.

政権交代と食事情——ワシントンD.C.から

米国の首都ワシントンD.C.は、しばしば政治の街と称されますが、今年はその名にふさわしく、政権交代に伴う動きが国内外の耳目を集めています。

厳しい寒波の影響により、約40年ぶりに屋内で挙行された大統領就任式は、ある種の厳粛な雰囲気の中で幕を開けましたが、直後から新政権による政策発表が相次ぎました。政権の方針転換は、経済政策、外交方針、環境規制といった多分野にわたり、その一つ一つが連邦議会や各州政府、さらには国際社会との関係が大きく変化するきっかけとなっています。

政権交代で、連邦政府の高官にとどまらず、ワシントン地域に住む政府職員、ロビイスト、シンクタンク研究者、政策アナリストなどが入れ替わり、街の人間模様にも変化が生まれているように感じます。人の移動は、政治的な雰囲気だけでなく、街の文化や消費行

動にも影響を及ぼします。興味深いのが、食文化への波及です。例えば、シーフードや地元食材を活用したレストランの利用に変化がみられているとの声が聞かれます。とりわけ、ワシントンの東に位置するチェサピーク湾で水揚げされるカキやブルークラブ、春から初夏にかけての名物であるソフトシェルクラブの消費が落ち込んでいることについて、地元の漁業関係者や関連する飲食業界からは懸念の声も上がっています。

一方で、肉料理などボリューム感のある伝統的なアメリカ料理を提供するレストランの人気がじわじわと高まる兆しもみられます。政治が、食のトレンドにまで影響し得るのは、ワシントンD.C.ならではの現象と言えるでしょう。

(日本銀行ワシントン事務所)

*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



名物のブルークラブをハンマーで叩いていただきます



ジェファソン記念館と日本から寄贈された桜